

読み聞かせの基礎

1. 読み聞かせの意義

- (1) 本の世界の楽しさを知らせることで、本と子どもを結びつける最も直接的で効果的な方法。
 - ☆本を声に出して読むことで、字の読めない子どもにも本の世界の楽しさを伝えることができる。
 - ☆文字が読める子どもでも、文章として、物語として読み取れない子どもたちに、本の楽しさを知らせることができる。
- (2) 子どもが自分で読む以上に本の世界を楽しめる。
 - ☆おとなに読んでもらうことによって、読み手の描く物語のイメージや感動などを共有することができ、本の世界をより深く楽しむことができる。

2. 読み聞かせのポイント

- (1) 読み聞かせに向く本の選び方
 - ☆絵がはっきりしていて、最後の列の子どもからも絵がよく見えるか。
 - ☆文章が短く、簡潔か。1つの場面の文章の量が多すぎないか。
 - ☆絵と文ができるだけ一致していること。
 - ☆話に沿って必要な場面が描かれているか。
 - ☆場面は見開きに1つがわかりやすい。
 - ☆聞き手にふさわしいか。

※上記の条件を満たした上で、好きな本、読んであげたいと思う本

- (2) 読み聞かせの前準備
 - ☆ページめくりをスムーズにするために、絵本には前もって開きやすいようくせをつけておく。
 - ☆どの子からも絵本がよく見えるような位置と角度を確認する。

(3) 読み聞かせの手順

【原則】

表紙を見せる→題名を読む→見返しを見せる(本文への導入)→標題紙を見せる
→本文を読む→裏見返しを見せる(余韻を残す)→裏表紙を見せる→再度、表紙を見せて題名を読んで、「おしまい」と言う
例：「『てぶくろ』、おしまい」

- ☆絵本がぐらつかないようにしっかり手に持つ。
- ☆ページをめくるときに
 - ・腕で画面をかくすことのないよう気をつけてめくる。
 - ・前もってページの端に指をかけておくとスムーズにめくれる。

(4) 読むときに心がけたいこと

- ☆読む速さやめくる速さ、間を考える。
- ☆作品の内容・構成・雰囲気をおおらかに感じ取り、その世界をしっかりと伝えられるようにする。
- ☆あとは、よくとおる声でゆっくり気持ちを込めて読むだけで、絵本の楽しさは伝わる。

(5) 読み聞かせのあとで

- ☆余韻を楽しむ。

3 本選びの注意～「どう読むか」より「何を読むか」が大切～

(1) 本に対する多様な価値観

- ★子どもの評価と大人の評価に違いがある本
- ★アニメ絵本

(2) 場所や目的に応じて本を選ぶ

本の評価は良くても、ふさわしくないとされる場合もある。

絵本の見方

(1) 読み継がれた絵本

自分の中の感性を養う

(例) 20才を過ぎた日本の絵本、20才を過ぎた外国の絵本

(2) 客観的な観点・規準

☆本の外観

紙質、印刷、大きさ、装丁、造本、形態、などの適否。

☆内容やテーマ

子どもの経験を広げることのできるもの、子どもの生活経験に近いものなど。

☆表現

子どもに適切な方法で内容が提示されているか。文章と絵の一体化。絵の連続性。簡潔でわかりやすい文章、絵の質など。

☆構成

起承転結。簡潔性。同じような出来事が少しずつ変化をつけて繰り返され、そこにリズム感があるか。

☆子どもの反応

*知識の絵本の場合・・・上記に加えて、次のことが必要である。

- ・内容は正確であるか。
- ・子どもの理解できる範囲のものであるか。
- ・子どもが理解できるように表現されているか。
- ・子どもの興味をかきたてる工夫がなされているか。

【参考文献】

『改訂 児童サービス論』（新・図書館学シリーズ11）

中多泰子／編 樹村房 2009.10

『えほんのせかい こどものせかい』 2017.10

松岡享子／著 日本エディタースクール出版部 1987.9（文庫版：文芸春秋 2017.10）

『児童サービス論』新訂版（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ-6）

堀川照代／編著 日本図書館協会 2020.3

『よみきかせのきほん 保育園・幼稚園・学校での実践ガイド』

東京子ども図書館／編 東京子ども図書館 2018.10